

100mm

C'

暮らしの知恵

どんなことするの？ 起源や発祥はどこ？ “お月見どろぼう”

この日だけの「公認」どろぼう

お月見どろぼうは、中秋の名月の日に飾られているお供え（お団子）を子ども達が盗む風習です。昔、子ども達は月からの使者と考えられており、この日に限って盗むことが許されていたそうです。



また、子ども達にお団子を盗まれることは縁起が良く豊作になると言われ、盗んだお団子を食べた子どもも長者になるとか、七軒盗んで食べると縁起が良いなどと語られているそうです。

現在でも子ども達が「お月見ください！」「お月見どろぼうで～す！」などと声を掛けて各家を周り、お団子やお菓子をもらう風習が残っている地域があります。なんだか日本版のハロウィーンみたいですね。

最初は芋だった!?

その昔、中秋の名月の日だけは他人の畑の芋を盗んでも良いという風習がありました。ただ盗れるだけ盗って良いということではなく、道から片足だけ踏み込んだ範囲

100mm

B'



で、という暗黙のルールがあったようです。そして、盗まれた方も「お月様が持って行って下さった」と喜び、その畑は豊作になると考えられていたそうです。

これが時代を経て畑の芋が団子へ変化し、子ども達が月の使者と考えられていたことと結びついて「お月見どろぼう」という風習ができあがった、とされています。

現在でも福島県、茨城県、千葉県、山梨県、愛知県、奈良県、大阪府、大分県、鹿児島県、沖縄県などの農産部で行われており、有名なのは愛知県の日進市、名古屋屋市、三重県四日市市などです。

今は街頭があるので月が出ていなくても困りませんが、昔は月明かりを頼りにお月見どろぼうをしていたのでしょね。

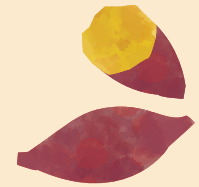
97mm（内側に折り込む面）

A'

カラダすっきり! イキイキ! 健康サプリ

美味しいサツマ芋は、健康の味方

ビタミンAがたっぷり: 平均的なサツマ芋には、ビタミンA（目の健康、骨の発達、免疫力に大切）が1日必要量の6倍も詰まっています。ビタミンAは脂溶性ビタミンなので、油と組み合わせて取ると吸収もアップします。



ヘルシーなタイプの炭水化物: サツマイモに含まれる炭水化物は複合炭水化物。複合炭水化物は運動する2～3時間前に摂ると、ランニングやサイクリングなどの激しい耐久力運動をするときにエネルギーをずっと維持してくれます。また、含まれる食物繊維の多さが糖の吸収を遅くするので、他の甘いスイーツとは逸脱したスーパー食材なんです。

腸が健康になる: サツマイモの食物繊維が豊富。食物繊維は、コレステロールを下げ、お通じをよくするほか、腸内の善玉菌を増やして病気につながる身体の炎症を減らす効果もあります。

血圧も下がる: サツマイモに含まれるカリウムは、ナトリウム（塩分）が身体に与える影響を減らし、血管の壁をしなやかにしてくれます。

幼児、低学年の方が
続々入門されています。
コロナ対策を徹底しておりますので、
是非お越しください。



副館長
浅川 正堂



館長 浅川 裕彦



道場HPは
コチラ➡



雙柳館 浅川道場
岐阜市野一色 4-8-1

お問い合わせは
058-247-3676

子ども達が剣道を通して、つよく、豊かな日本人に育つことを願います。

強さやかっこよさへの憧れが消えたわけではなく、それらへの憧れが強くなることに加えて、いつしか人間性に憧れをいだくようになっていくと感じます。執行氏の言葉をお借りすると「精神の羅針盤」を子ども達なりに持ち始めているということ。これを持った子どもは強く道を誤ることもないでしょう。憧れの力は強くエネルギーに満ち溢れ、それを得た子どもは本当に目を輝かせます。子どもが真の憧れをいだくには如何なる経験が必要なのか、きっかけは何か。答えは持ち合わせていませんが、手塩にかけ、大いに愛情を注ぐことだけは欠かせぬことと思っております。

小学五年R子：強くていつも明るいA子ちゃんみたいになりたいと思って、頑張ってきたけど試合では思うように勝てなかった。A子ちゃんの稽古を見て真似しようと思ったことは、いつも大きな声で稽古をすること、簡単に諦めないこと、道場のお母さんたちにも元気に挨拶すること、後輩たちに優しくすることだ。

中学二年K男の母：剣道もなんですけど、やっぱり先輩のA君に憧れているみたいで、一緒に高校に行きたいみたいです。

強さやかっこよさへの憧れが消えたわけではなく、それらへの憧れが強くなることに加えて、いつしか人間性に憧れを



子どもの汗と笑顔は 日本の宝

道

私、登田が通う剣道の師匠に、日ごろ子供達へお話ししている徒然を書いて頂いています。

子どもの憧れ
原爆の開発を目指したマンハッタン計画。それに携わった世界的秀才の科学者達は、その危険性を十分に理解していたにも関わらず、運用を止められず、結果を見て使用反対運動を始めるにいたりました。アインシュタインも原爆開発の必要性について後押ししたことを後悔した一人です。このことについて執行草舟氏は著書「憧れの思想」において「彼らには頭脳はあっても精神の羅針盤がなかった。」と記しています。

子ども達はそれぞれの憧れを持って、道場の門をたたきます。